

作物名	病害虫名	発生予報	備考
水稲	葉いもち	発生量: 平年並	
	穂いもち	発生時期: やや早い 発生量: 平年並	発生時期: 全般発生期
	紋枯病	発生量: やや多	
	稲こうじ病	発生量: やや少	
	斑点米カメムシ類 (アカスジカスミカメ、 クモヘリカメムシ)	発生時期: やや早い 発生量: 多い	発生時期: 本田侵入始期
	フタオビコヤガ (イネアオムシ)	発生量: やや少	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
夏秋トマト	うどんこ病	発生量: 平年並	
	疫病	発生量: やや少	
	葉かび病	発生量: やや少	
	すすかび病	発生量: 平年並	
	灰色かび病	発生量: やや少	
	アザミウマ類	発生量: やや多	
	アブラムシ類	発生量: やや多	
	コナジラミ類	発生量: やや多	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
夏秋なす	うどんこ病	発生量: 平年並	
	すすかび病	発生量: 平年並	
	灰色かび病	発生量: やや少	
	アザミウマ類	発生量: やや多	
	アブラムシ類	発生量: やや多	
	コナジラミ類	発生量: やや多	
	ハダニ類	発生量: やや多	
	ハモグリバエ類	発生量: やや多	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
秋冬ねぎ	さび病	発生量: 平年並	
	べと病	発生量: 平年並	
	黒斑病・葉枯病	発生量: やや多	
	ネギアザミウマ	発生量: やや多	
	ネギハモグリバエ	発生量: 平年並	
	ネギコガ	発生量: やや多	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
きく(露地)	白さび病	発生量: やや少	
	アザミウマ類	発生量: やや多	
	ハダニ類	発生量: やや多	
	カスミカメムシ類	発生量: やや多	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
作物共通	オオタバコガ	発生量: 平年並	
	ハスモンヨトウ	発生量: 平年並	
	シロイチモジヨトウ	発生量: 平年並	

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。

宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第8号の発行日は8月7日(月)の予定です。

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所 メルマガ
トップページ 登録フォーム



ー8月中旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:7月12～14日

天候予報:仙台管区气象台7月20日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
葉いもち	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高かったが、発病株率及び発病度は平年並であった。(/ ± ~ +)
- (2)7月24日現在、BLASTAMによる感染好適条件の推定結果では、7月上旬以降、県広域で感染好適条件が出現している。(/ +)
- (3)平均気温が19～25℃、曇りや雨が多いことが発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ -)、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期 (全般発生期※)	発生量
穂いもち	やや早い (8月第3半旬:8/11～8/15)	平年並

※1地点25株調査で県内の多くの地点で穂いもちが確認される時期

予報の根拠

- (1)中生品種(北部平坦部)の出穂期は7月28日頃と予測され、平年(県平均:8月2日)よりやや早い見込みである。(- /)
- (2)巡回調査の結果、葉いもちの発生地点率は平年よりやや高かったが、発病株率は平年並であった。(- ~ ± / ± ~ +)
- (3)曇りや雨が多いことが発生に好適であり、向こう1か月の降水量及び日照時間はほぼ平年並と予報されている。(± / ±)

病害虫名	発生時期	発生量
紋枯病	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高かったが、発病株率及び発病度は平年並であった。(/ ± ~ +)
- (2)高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
稲こうじ病	—	やや少

予報の根拠

- (1) 前年の発生量が平年よりやや少なかったことから、伝染源量はやや少ないと推測される。(/ —)
- (2) 穂ばらみ期が低温で、降雨日数の多いことが発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ —)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期 (本田侵入始期)	発生量
斑点米カメムシ類 (アカスジカスミカメ、 クモヘリカメムシ)	やや早い (7月第6半旬:7/26~7/31)	多い

予報の根拠

- (1) 注意報第1号(7月24日発表)を参照。

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/r05chuiho01.pdf>

病害虫名	発生時期	発生量
フタオビコヤガ (イネアオムシ)	—	やや少

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや低く、すくい取り虫数は平年より少なかった。(/ —)
- (2) 幼虫の発生には曇雨天が好適であり、向こう1か月の降水量及び日照時間はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (—):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (—):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- 病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- 薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/miyagi>
- 出穂期予測を参考に適期防除を実施する。今後の天候が平年並であると仮定すると、7月18日現在、県内の中生品種(北部平坦部)の出穂期は7月28日頃と予測されている(宮城県米づくり推進本部発表)。

(2) 葉いもち

- 上位葉での発病は穂いもちの重要な伝染源になる。ほ場をよく見回り、発病が見られた場合は速やかに茎葉散布剤で防除する。

(3) 穂いもち

- ・ 茎葉散布剤による防除は1回目を出穂直前、2回目を穂揃期に実施する。
- ・ 上位葉の葉いもちの発生が多く穂いもちが多発するおそれがある場合や、出穂期間が長引く場合は3回目の防除を穂揃期の7～10日後に実施する。
- ・ 「金のいぶき」は穂いもちの抵抗性がやや弱いため、穂いもち防除を3回実施する。
- ・ 7月24日現在、BLASTAMによる感染好適条件の推定結果では、7月上旬以降、県広域で感染好適条件が出現している。BLASTAMによる最新の葉いもちの感染好適条件の推定結果は以下のURLを参照する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

(4) 紋枯病

- ・ 前年に形成された菌核が翌年の伝染源となるため、紋枯病が前年に発生したほ場では要防除水準を参考に防除を検討する。
- ・ 要防除水準:「ひとめぼれ」の減収率を5%以上と想定した場合、穂ばらみ期の発病株率は18%以上となる。要防除水準に達した場合、防除を実施する。

※普及に移す技術第90号参考資料「イネ紋枯病の新しい要防除水準」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/305990.pdf>

- ・ 防除は穂ばらみ期の水面施用剤または穂ばらみ期～出穂期の茎葉散布剤を施用する。

(5) 稲こうじ病

- ・ 前年に形成された菌核が翌年の伝染源となるため、稲こうじ病が前年に発生したほ場では防除を検討する。
- ・ 銅剤による防除は出穂20～10日前が散布適期である。
- ・ 窒素肥料の多用は発生を助長するおそれがあるため、追肥の多用は避ける。

(6) 斑点米カメムシ類

- ・ 注意報第1号(7月24日発表)を参照。

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/r05chuiho01.pdf>

(7) フタオビコヤガ(イネアオムシ)

- ・ 防除適期は、成虫発生盛期の7～10日後の幼虫発生盛期である。有効積算温度シミュレーションの結果、第2世代成虫発生盛期は平年(7月第5半旬)より早い7月第3半旬と推測されるため、必要に応じて直ちに防除を実施する。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

－8月下旬までの発生予報と防除のポイント－

巡回調査:7月12～13日

天候予報:仙台管区气象台7月20日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	－	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病株率は平年並であった。(/ ±)
- (2)向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
疫病	－	やや少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2)20℃前後で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ -)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
葉かび病	－	やや少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ -)
- (2)20～25℃で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ -)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
すすかび病	－	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ -)
- (2)18～28℃で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ ±)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
灰色かび病	－	やや少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病株率は平年並であった。(/ ±)
- (2)15～23℃で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ -)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	—	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	—	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生株率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	—	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生株率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+)：遅くなる要因 (±)：平年並になる要因 (－)：早くなる要因 (空欄)：該当せず
発生量…(+)：多くなる要因 (±)：平年並になる要因 (－)：少なくなる要因 (空欄)：該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- 施設周辺の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。
- 病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- 植物体の過繁茂は、病害の発生を助長するほか、薬剤の散布ムラや、病害虫の発生を見落とす可能性があるため、適切に脇芽取りや誘引等の栽培管理を行う。また、病害虫が多発してからの防除は困難になるので、初期防除の徹底を心がける。
- 多湿条件下では病害の発生が助長されることから、適切に換気を行う。
- ウイルス病の発病株は見つけ次第抜き取り、施設外へ搬出し適切に処分する。
- 訪花昆虫を利用する場合は、訪花昆虫の影響日数に注意して使用薬剤を選択する。
- オオタバコガについては「作物共通害虫」の発生予報を参考にする。
- 薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) うどんこ病

- 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、気門封鎖剤も含めてFRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。ただし、気門封鎖剤は薬害が出やすいため、あらかじめ数株に散布して薬害の状況を確認してから、植物体全体にムラなく散布する。

※「普及に移す技術」第 94 号(令和元年発行)参考資料 14「トマトうどんこ病に対する気門封鎖型薬剤の防除効果」<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/735201.pdf>

(3)疫病

- ・一度発生すると急激に蔓延するため、発生初期の防除を徹底する。

(4)葉かび病・すすかび病

- ・葉かび病とすすかび病の病斑は似ており、肉眼では判別が難しいので、関係機関に相談して顕微鏡で分生子を確認してもらい、それぞれに適応のある農薬を散布する。
- ・病原菌が葉に感染してから病斑が発生するまで、葉かび病は 10 日以上、すすかび病は2週間以上と潜伏期間が長い。よって初発を確認した時にはすでに他にも潜在感染株が存在している可能性があるため、速やかに防除を行う。

(5)灰色かび病

- ・咲き終わった花卉が第二次伝染源になるので、手で取り除くかブローで吹き飛ばす。

(6)アザミウマ類

- ・近年薬剤感受性の低下が全国的に問題となっているため、発生しているアザミウマの種類に効果がある IRAC コードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。
※「普及に移す技術」第 93 号(平成 30 年発行)参考資料 9「アザミウマ類の各種薬剤に対する感受性」<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/685975.pdf>

(7)アブラムシ類

- ・多発すると作物への吸汁や排泄物にすすが発生して被害が出るので、適切に防除を行う。

(8)コナジラミ類

- ・多発すると排泄物(甘露)によるすすが発生することと、タバココナジラミは低密度でもウイルスを媒介するため、ほ場をよく見回り、施設内への侵入防止と発生初期からの防除を徹底する。
- ・主に葉裏にいたので、薬剤は葉の裏にもよくかかるように散布する。
- ・タバココナジラミのバイオタイプ Q は薬剤感受性が低い事例が他県で報告されていることから、気門封鎖剤や天敵製剤による防除もあわせて行う。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月 31 日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クオルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

－8月下旬までの発生予報と防除のポイント－

巡回調査:7月12～14日

天候予報:仙台管区气象台7月20日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	－	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、一部で発病株率が高いほ場も認められたが、発生地点率および発病株率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
すすかび病	－	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ -)
- (2) 23～28℃で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ ±)、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
灰色かび病	－	やや少

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 15～25℃で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/ -)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	－	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、一部で寄生葉率及び寄生花率が高いほ場も認められたが、発生地点率及び寄生葉率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	－	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生株率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	—	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生株率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	—	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び寄生株率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
ハモグリバエ類	—	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/ +)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+) : 遅くなる要因 (±) : 平年並になる要因 (−) : 早くなる要因 (空欄) : 該当せず
発生量…(+) : 多くなる要因 (±) : 平年並になる要因 (−) : 少なくなる要因 (空欄) : 該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- 施設周辺の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。
- 病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- 植物体の過繁茂は、病害の発生を助長するほか、薬剤の散布ムラや病害虫の発生を見落とす可能性があるため、適切に整枝剪定を行う。また、病害虫が多発してからの防除は困難になるので、初期防除の徹底を心がける。
- 天敵製剤や訪花昆虫を使用している場合は、天敵や訪花昆虫への影響日数に注意して使用する薬剤を選択する。
- オオタバコガについては「作物共通害虫」の発生予報を参考にする。
- 薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) うどんこ病

- 多発時は散布間隔を短くし、4～5日間隔でFRACコードが異なる薬剤をローテーション散布する。

(3) すすかび病・灰色かび病

- 発病した果実や茎葉は見つけ次第摘除し、施設外へ搬出し適切に処分する。

(4)アザミウマ類

・近年薬剤感受性の低下が全国的に問題となっているため、発生しているアザミウマの種類に効果があるIRACコードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。

※「普及に移す技術」第93号(平成30年発行)参考資料9「アザミウマ類の各種薬剤に対する感受性」<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20202/685975.pdf>

(5)アブラムシ類、ハモグリバエ類

・ほ場をよく見回り、適切に防除を行う。

(6)コナジラミ類

・多発すると排泄物(甘露)によるすすが発生するため、ほ場をよく見回り、施設内への侵入防止と発生初期からの防除を徹底する。

・主に葉裏にいたので、薬剤は葉の裏にもよくかかるように散布する。

(7)ハダニ類

・薬剤感受性が低下しやすいので、薬剤の効果を確認し、気門封鎖剤も含めてIRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。

・多発すると1回の薬剤散布のみでは散布ムラ等で十分な効果が得られない場合があるので、薬剤散布の3～5日後にハダニ類が寄生していた場所を観察し、虫の有無や薬剤の効果を確認する。効果が見られなかった場合はIRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

－8月下旬までの発生予報と防除のポイント－

巡回調査:7月12～14日

天候予報:仙台管区气象台7月20日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
さび病	－	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高かったが、発病度は平年並であった。
(/±～+)
- (2)15～20℃前後の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/-)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	－	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び発病度は平年並であった。(/±)
- (2)15～20℃前後の気温と多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/-)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
黒斑病・葉枯病	－	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く、発病度も平年より高かった。(/+)
- (2)多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ネギアザミウマ	－	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び被害度は平年よりやや高かった。(/+)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ネギハモグリバエ	－	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年並であったが、被害度は平年よりやや低かった。
(/-～±)
- (2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ネギコガ	—	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び被害株率は平年よりやや高かった。(/+)
(2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・いずれの病害虫も多発してからでは防除が困難になるため、発生初期の防除に努める。
- ・病害虫の薬剤抵抗性発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) さび病、べと病、黒斑病、葉枯病

- ・多湿(降雨、滞水)により発病が助長されることから、排水が悪いほ場では、明きよを設けるなど排水対策を行う。
- ・草勢が衰えると多発する傾向があるので、適正な肥培管理を実施する。

(3) ネギアザミウマ、ネギハモグリバエ

- ・ほ場内及びほ場周辺の雑草は、これら害虫の発生源となるので除草に努める。
- ・ネギアザミウマはウイルス病を媒介することがあるので、ほ場を観察し適切に防除を行う。
- ・近年、従来のネギハモグリバエと異なり、著しい食害痕を呈するバイオタイプBの発生が広域で確認されているため、防除を徹底する。

(4) ネギコガ

- ・被害が見られた場合は、浸透移行性の高い薬剤を用いて速やかに防除を行う。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

令和5年度 発生予察情報	発生予報第7号 ーきく(露地)ー	令和5年7月 24 日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	-------------------------	----------------------------

ー8月中旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査: 7月 13～14 日

天候予報: 仙台管区气象台7月 20 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
白さび病	ー	やや少

予報の根拠

- 巡回調査の結果、発生地点率は平年並であったが、発病株率は平年より低かった。
(/ー～±)
- 20℃以下の低温と多雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/ー)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	ー	やや多

予報の根拠

- 巡回調査の結果、発生地点率は平年より高かったが、被害葉率は平年並であった。
(/±～+)
- 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	やや多

予報の根拠

- 巡回調査の結果、寄生頭数は平年よりやや少なかったが、発生地点率は平年並であった。
(/ー～±)
- 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
カスミカメムシ類	ー	やや多

予報の根拠

- 巡回調査の結果、発生地点率は平年より高かったが、被害茎率は平年並であった。
(/±～+)
- 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒して降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) 白さび病

- ・罹病葉や残渣が原因となって発生が拡大するので、罹病した部位は早めに摘み取り、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- ・葉裏の初期病斑を見逃さないようよく観察し、薬剤は葉裏にも丁寧に散布する。

(3) アザミウマ類、ハダニ類、アブラムシ類

- ・ほ場をよく観察し、発生初期の防除に努める。
- ・ほ場周辺の雑草は、発生源となるので除草に努める。

(4) カスミカメムシ類

- ・被害が広域で確認されている。ほ場をよく観察し、被害状況に応じて適時防除を行う。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー8月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:7月12～14日

天候予報:仙台管区气象台7月20日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
オオタバコガ	—	平年並

予報の根拠

- (1)フェロモントラップでの誘殺数は平年並であった。(/ ±)
- (2)巡回調査の結果、夏秋トマトで被害が確認された。(/ +)
- (3)乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハスモンヨトウ	—	平年並

予報の根拠

- (1)フェロモントラップでの誘殺数は平年並であった。(/ +)
- (2)巡回調査の結果、発生は確認されなかった(夏秋トマト、夏秋なす)。(/ ±)
- (3)乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
シロイチモジヨトウ	—	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生は確認されなかった(秋冬ネギ)。(/ ±)
- (2)乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が低下するので、ほ場をよく見回り早期発見に努め、中齢幼虫までに薬剤防除を行う。
- ・寄主範囲が広く、雑草での発生も多いため、ほ場周辺の除草を実施する。
- ・施設栽培では開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ・薬剤抵抗性の発達防止のため、IRACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2)オオタバコガ

- ・宮城県は平年では7月中下旬に第1世代、8月中下旬に第2世代の成虫が飛来するとされているので、ほ場をよく見回り早期発見に努める。
- ・生長点付近の茎葉・蕾・花・幼果に食入すると農薬がかかりにくく防除が困難になるため、農作物に食入する前に防除を行う。
- ・トマトやナス等果菜類の被害果、レタスや花き類等の被害株は、内部に幼虫が生息している場合があるので、ほ場外へ持ち出して適切に処分する。
- ・通常、大豆における発生密度は低いですが、突発的に集中発生することがあるため、早期発見・早期防除に努め、若齢幼虫期に薬剤防除を実施する。ツメクサガと混発している場合は下記の情報を参考にする。

※「普及に移す技術」第98号(令和5年発行)参考資料11「大豆栽培におけるタバコガ類に対するフルベンジアミド水和剤の防除効果」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/22r04sankou11.pdf>

(3)ハスモンヨトウ・シロイチモジヨトウ

- ・葉裏に毛でおおわれた卵塊で産卵し、集団で葉を食害するので、見つけ次第除去する。
- ・初発の防除後にも被害が見られる場合は、成虫の飛来が多い状況であるため、被害葉の除去とともに、7～10日間隔で薬剤をローテーション散布し、若齢幼虫を防除する。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう
- ② 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ③ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう
- ④ 土壌くん蒸剤(クロルピクリン剤等)の取扱いに注意しましょう
- ⑤ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう
- ⑥ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム